


# チューター実践案

手順	作業	狙い
① 対面	留学生と対面し、時計を置きます。	対面と時計により・・・ ・早いレスによる作業量の圧縮。 ・深読みによるオーサーシップ侵害予防。 ・対面外作業の禁止によりオーバーワークの予防。
② 依頼書の提出・確認	依頼書の提出・確認。	依頼書を確認することで・・・ ・ニーズ/希望作業時間の厳守。 ・オーバーワーク/オーサーシップの侵害の原因となるお節介の予防。 ・留学生による時間配分の最適化。
③ 依頼書の確認	骨子・要旨の確認	要旨・骨子を把握します。 これで語彙選択、添削など助言の方針を立てます（スキーマの構築）。
④ 時間計測	作業時間の概算	2000字あたりにかかる助言時間を計測します。 これにより添削や助言にかかる時間の目安を立てます。 そうすることで、助言・添削の質が決定されます。 *留学生には待機してもらっています
⑤ 助言の実施	メリハリをつけた助言。	・修正例を提示しないことで、作業量の圧縮+自立支援へ。 例：SVのねじれ、コロケーションの誤り等は指摘のみ。 ・意味不明な部分は目の前にいる留学生に聞きます。 ∴深読みによりオーサーシップを害する危険性。 ・エラーログを作り、同じ間違いを犯す可能性を減少させます。



**論文チューター依頼シート** チューター利用日 ( 月 日 時 )

<p><b>① 資料の種類</b></p> <input type="checkbox"/> 要旨 <input type="checkbox"/> 本文 ( ) <small>(例：第3章2節)</small>	<p><b>② 直近の締切</b></p> <input type="checkbox"/> 指導教員への提出締切 ( 月 日 時 ) <input type="checkbox"/> 論文報告会 ( 月 日 時 ) <input type="checkbox"/> ゼミでの報告 ( 月 日 時 )
<p><b>③ 指導教員に確認済の事項</b></p> <input type="checkbox"/> 論文のテーマ <input type="checkbox"/> 論文の内容 (論旨、論理構成など) <input type="checkbox"/> 形式 (準拠するスタイル)	
<p><b>④ 論文全体の進捗度自己評価</b></p> <input type="checkbox"/> 0-20% <input type="checkbox"/> 21-50% <input type="checkbox"/> 51-80% <input type="checkbox"/> 81-95% <input type="checkbox"/> 95-100%	<p><b>⑤ 今回確認する資料の完成度</b></p> <input type="checkbox"/> 0-20% <input type="checkbox"/> 21-50% <input type="checkbox"/> 51-80% <input type="checkbox"/> 81-95% <input type="checkbox"/> 95-100%
<p><b>⑥ 論文の骨子</b> (例:問題意識、主張、根拠等を可能な範囲で簡単に書いてください500文字程度)</p>	
<p><b>⑦ 依頼事項</b></p> <input type="checkbox"/> プレインストーミング <input type="checkbox"/> 論理の確認 <input type="checkbox"/> 日本語表現の助言 <input type="checkbox"/> 引用形式の確認 <input type="checkbox"/> その他 ( ) <small>注:依頼された事項以外のこと実施しません。 注:希望実施時間に応じて助言の質が変わります。</small>	<p><b>⑧ 希望実施時間</b></p> <input type="checkbox"/> ( ) 分 (残り利用可能時間 /34 時間) 例 ( 90 ) 分 (残り利用可能時間 32.5/34 時間) <small>注:チューター作業は対面のみ認められています。 注:原稿を読む時間も、実施時間に含まれます。 原稿を読んでもらっている間は、再度自分で原稿を読んで、修正すべきポイントを自分で見つけるようにしてください。</small>
<p><b>⑨ チューターへの要望など</b> (どこを重点に見てほしいか等)</p>	

## エラーログ

原文	誤りの類型	解説	修正
本稿の目的は、死刑廃止論の根拠について検討することです。	文体の誤り	です/ますという文体は、論文では使いません。「である・だ」といった文体を用います。	本稿の目的は、死刑廃止論の根拠について検討することである。